

私のおすすめ この1冊!

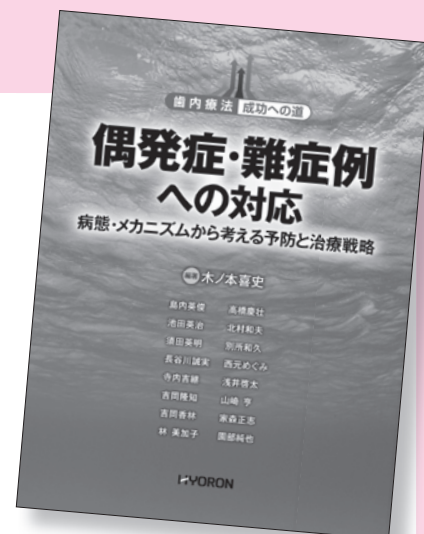
歯内療法 成功への道 偶発症・難症例への対応 ——病態・メカニズムから考える予防と治療戦略

木ノ本喜史 編著

A4 変判・200頁・定価(本体8,800円+税)
2014年3月25日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

牧 宏佳

(東京都中央区/ナオ歯科クリニック)



今までにない視点による書

偶発症や難症例ではできれば避けて通りたいというのが、臨床医の本音ではないだろうか? 臨床医は治療に対する結果を患者さんから求められるが、その期待にうまく応えられない場合が多いからである。本書は、その難題に取り組んでいる非常に興味深い書籍である。

今まで、ほとんどの書籍で「このように治療すれば治る」といった技術やテクニック論を中心に紹介されてきたが、本書はどのパートにおいても必ず病態のメカニズムからはじまり、問題点の把握、予防法が記され、最後に治療方法という順番で執筆されている。

「なぜ、このような流れなのか?」ということが最初は不思議に思われたが、本書を読み進んでいくうちにその理由がわかってきた。それは、どの著者も「この病態を改善するためにはこのようにすればよい」という明確な治療戦略を立てるためには、考え方や手順を整理して考える必要がある、ということ述べているからだ。

病態を理解できれば、自然と治療の道がきり拓けるということが一貫して述べられており、そのためのヒントや考え方が余すところなく記さ

れているのが、本書における最大の特徴であると思う。

偶発症編

前半は、「偶発症編」として日常臨床で起こり得るさまざまなことが取り上げられている。このパートを読んだ後に自分の臨床を振り返ると「あのときの痛みはこのようなことだったのか?」などメカニズムがみえてくるし、「これでも痛みが出るのか?」など新たな発見をすることができる。そして、日々の臨床で使用している薬剤や道具の特性や欠点も把握できるのである。

治療を行ううえで薬剤や道具は欠かせないものなので、いつも利点ばかりを気にするが、その欠点を見直す機会も本書は与えてくれている。さらには、もし不運にも偶発症が起きたとしても、その対処法まで細かく解説されているので、臨床医にとって本当に心強い内容となっている。

難症例編

後半では、「難症例編」として多くの臨床例が提示されている。症例の治療法も非常に参考になるが、何よりも注目したいのが、「診断へのこだわり」ということである。

もちろん、CT画像からの診断もあるが、デンタルエックス線写真と口腔内所見からエキスパートの先生方は「こんなに深く考えているのか?」と思える内容が随所に表れている。そして、さまざまな鑑別診断のポイントまで詳細に記載されており、診断の大切さを常に意識していることがわかる。これが本書のタイトルにもある「歯内療法 成功への道」の鍵になっていると、改めて実感させられた。

*

本書を通じて、さまざまな先生方の思考を学べることは、臨床に大きく役立つと思われる。今まで、偶発症や難症例に遭遇すると「しょうがない」と思って諦めていたことが、「今、どのような病態なのか?」と少し立ち止まって考えることができるようになる。その考えることこそが、まさに治療に結びついてくるのであろう。

本書は、その“力”を養うために必要な基礎的視点と臨床的視点の両方を結びつけてくれる、今までにない視点からの書籍なので、ぜひとも一読していただきたいと思う。まさに、エキスパートの先生方からの贈り物といえる1冊である。